

フィーダコントローラ  
フィーダオプション

AD-4826-30G

AD-4826-200G

AD-4826-500G

設置マニュアル

# 注意事項の表記方法



この表記は、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う差し迫った危険が想定される内容を示します。



この表記は、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。



この表記は、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負ったり、物的損害の発生が想定される内容を示します。

## 注意

正しく使用するための注意点の記述です。

## お知らせ

機器を操作するのに役立つ情報の記述です。

## ご注意

- (1) 本書の一部または全部を無断転載することは固くお断りします。
- (2) 本書の内容については将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書の内容は万全を期して作成しておりますが、ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきの点がありましたらご連絡ください。
- (4) 当社では、本機の運用を理由とする損失、損失利益等の請求については、(3)項にかかわらずいかなる責任も負いかねますのでご了承ください。

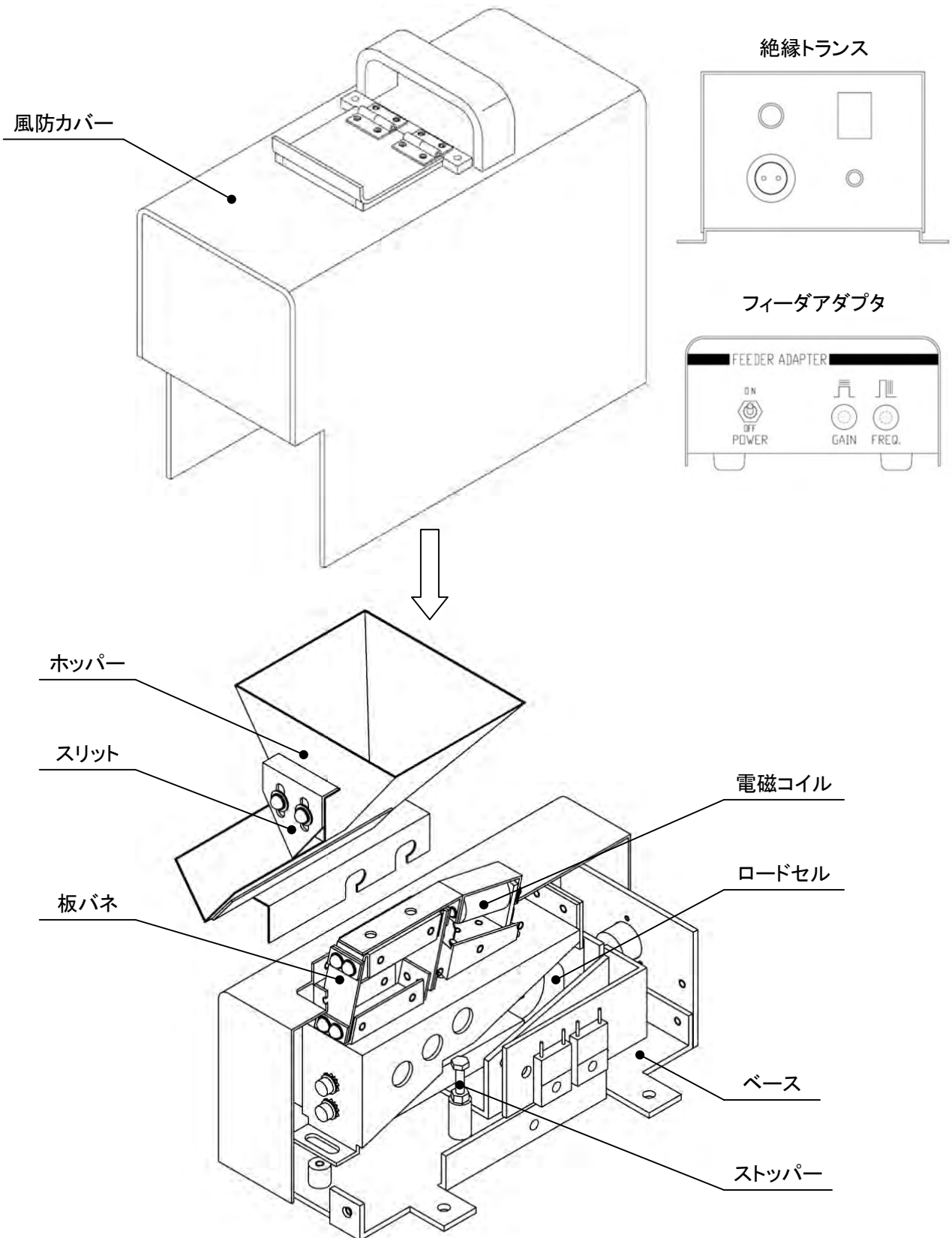
© 2004 株式会社 エー・アンド・デイ  
株式会社エー・アンド・デイの許可なく複製・改変などを行なうことはできません。

# << 目次 >>

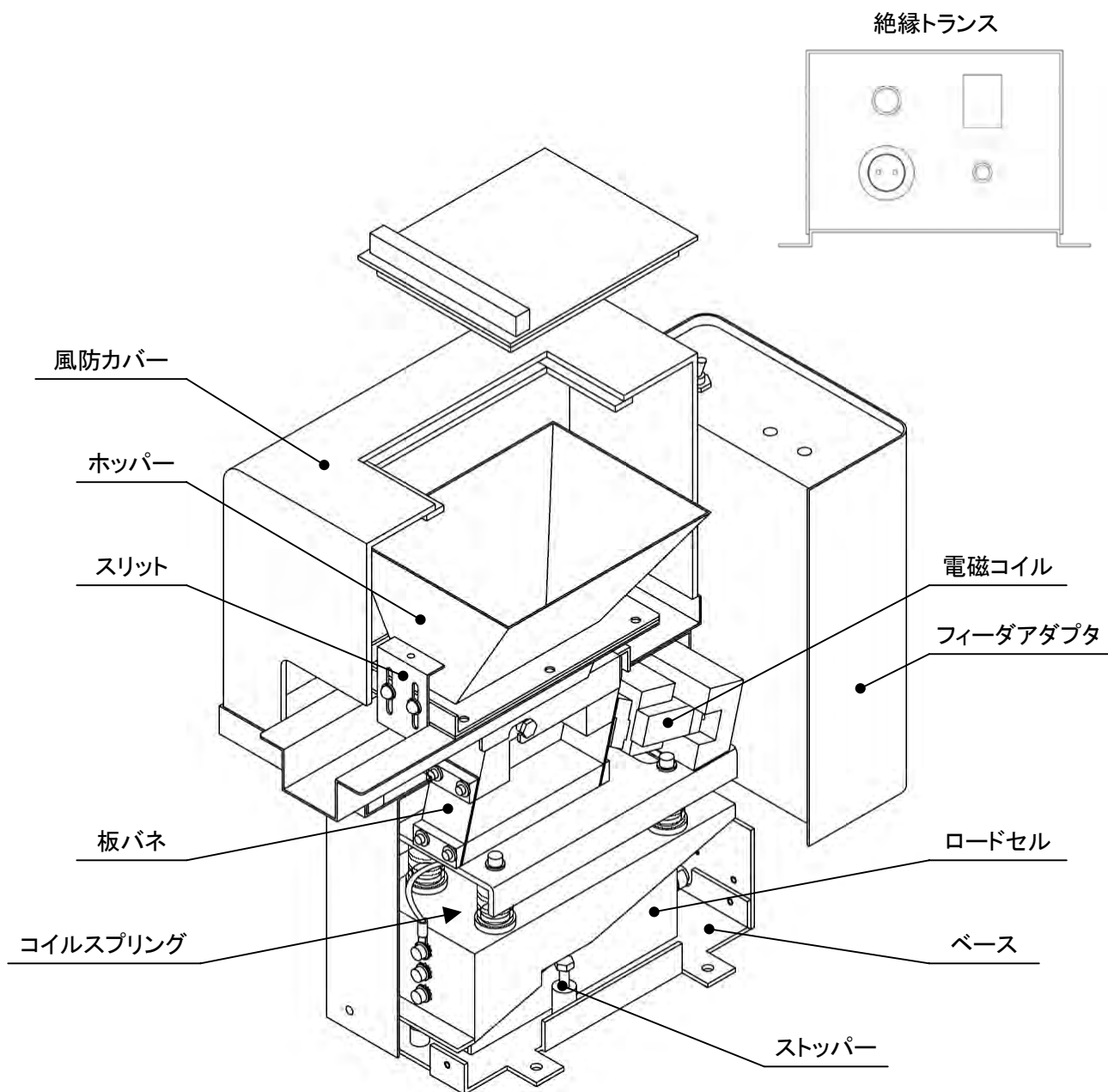
1.	各部名称 .....	2
1.1.	AD4826-30G .....	2
1.2.	AD4826-200G/500G .....	3
2.	接続準備 .....	4
2.1.	AD4826-30G .....	4
2.1.1.	輸送用カバーの取り外し .....	4
2.1.2.	輸送ストッパーの取り外し .....	4
2.1.3.	ホッパーの取り付け .....	5
2.2.	AD4826-200G/500G .....	6
2.2.1.	ダストカバーの取り外し .....	6
2.2.2.	輸送金具の取り外し .....	6
2.2.3.	ホッパーの取り付け .....	7
3.	ケーブルの接続 .....	8
4.	キャリブレーション .....	9
4.1.	キャリブレーションメニュー画面 .....	9
4.2.	計量器情報 1 .....	9
4.3.	デジタルスパン校正 .....	11
5.	フィーダの調整 .....	12

# 1. 各部名称

## 1.1. AD4826-30G



## 1.2. AD4826-200G/500G



---

## 2. 接続準備

---

### 2.1. AD4826-30G

輸送時には、フィーダ本体内部に輸送ストッパーが付けられています。

このストッパを外さないと、計量が出来ません。

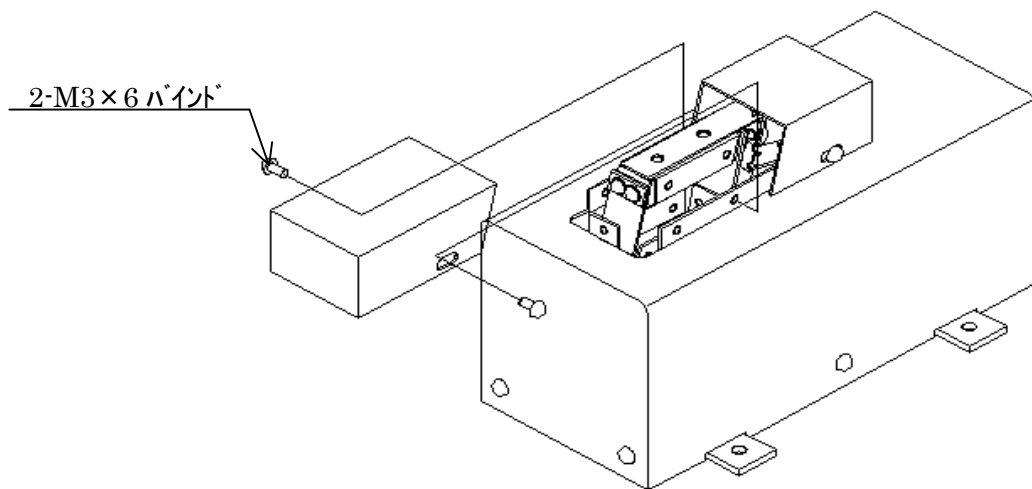
下記の手順で、取り外してください。

輸送時には、輸送ストッパーを必ず取り付けてください。

尚、取り外し時、本機に使用されていますロードセルは繊細で破損しやすいものなので慎重に取り外す様に、お願いします。

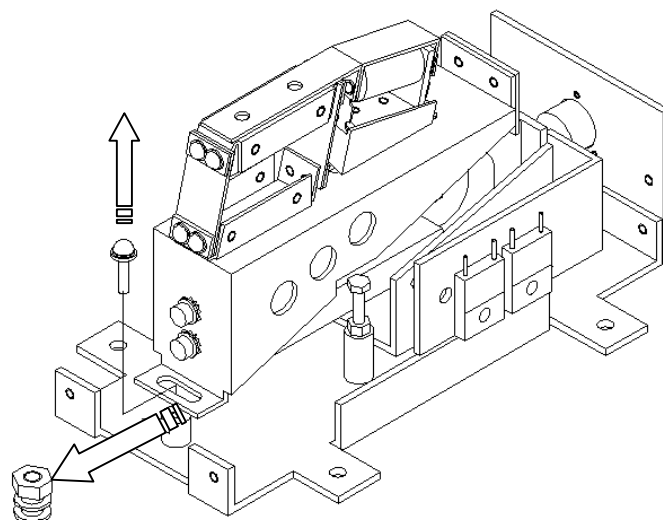
#### 2.1.1. 輸送用カバーの取り外し

開梱後、フィーダ本体の輸送用カバーを外します。



#### 2.1.2. 輸送ストッパーの取り外し

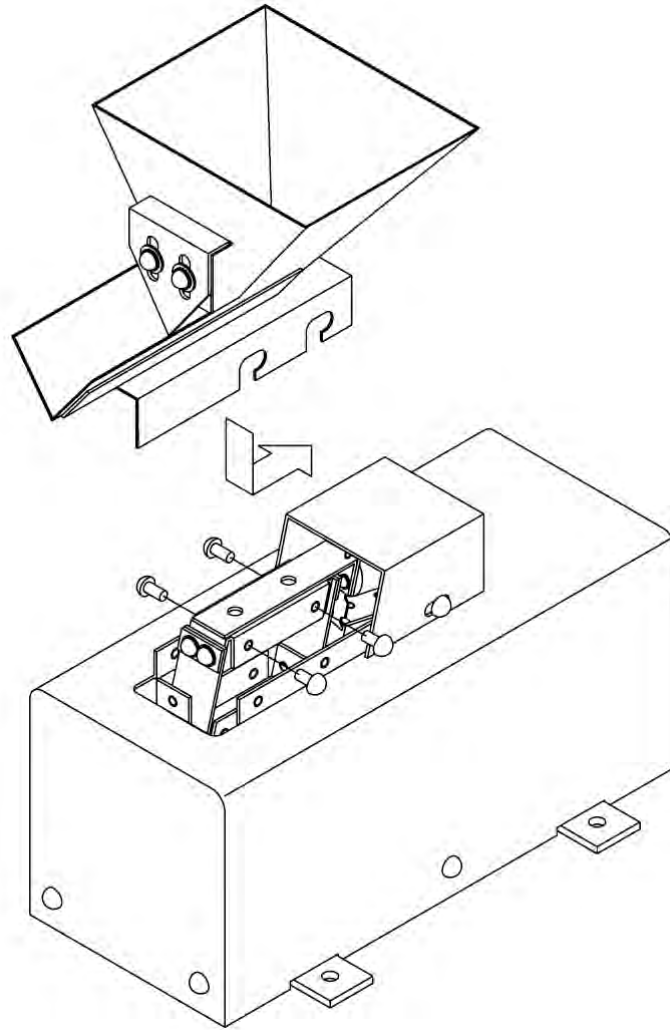
フィーダ本体のカバーを外し、フィーダ前部にある、輸送用ストッパー(ナット類)を取り外します。



### 2.1.3. ホッパーの取り付け

フィーダ本体のカバーを付け、ホッパーを取り付けます。

ネジを締める際、ロードセルに横方向の力が加わらない様に、ホッパーを支えながらネジを締めてください。



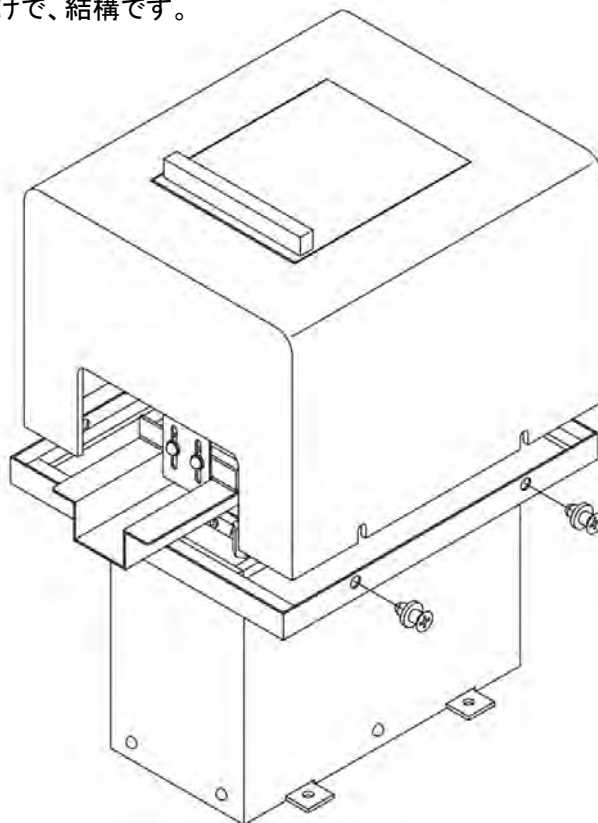
---

## 2.2. AD4826-200G/500G

### 2.2.1. ダストカバーの取り外し

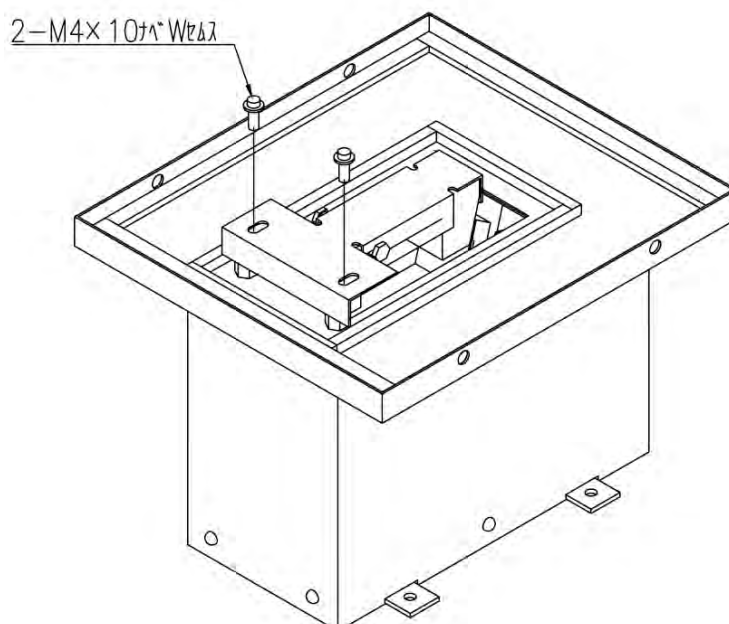
ダストカバーは、4つのプッシングリベットをドライバーで緩め、外します。

付けるときは、差し込むだけで、結構です。



### 2.2.2. 輸送金具の取り外し

輸送用金具を取外します。輸送金具は輸送時には必ず取り付けてください。

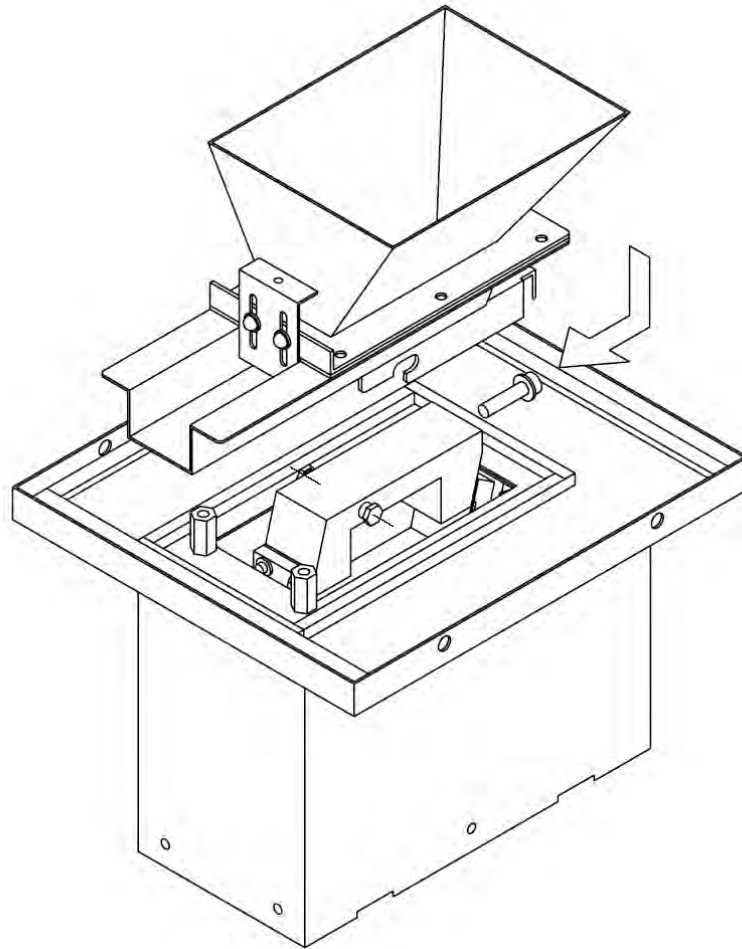




## 2.2.3. ホッパーの取り付け

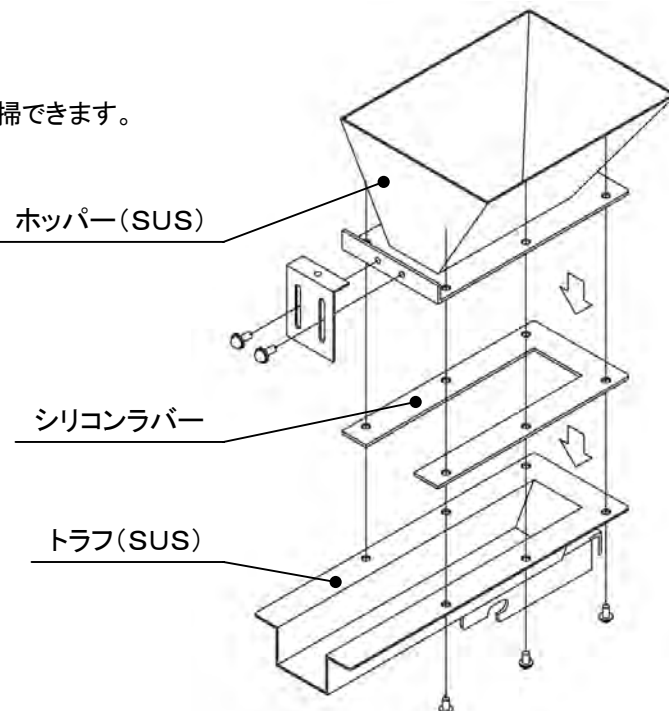
ホッパーを取り付けます。

ネジを締める際、ロードセルに横方向の力が加わらない様に、ホッパーを支えながらネジを締めてください。



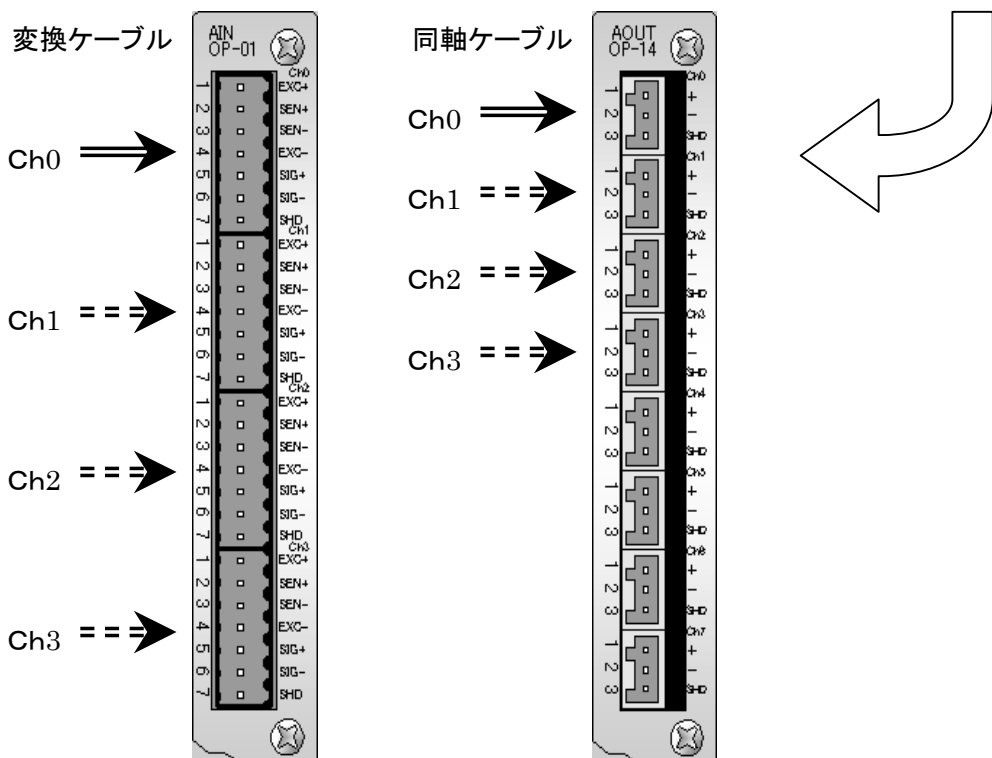
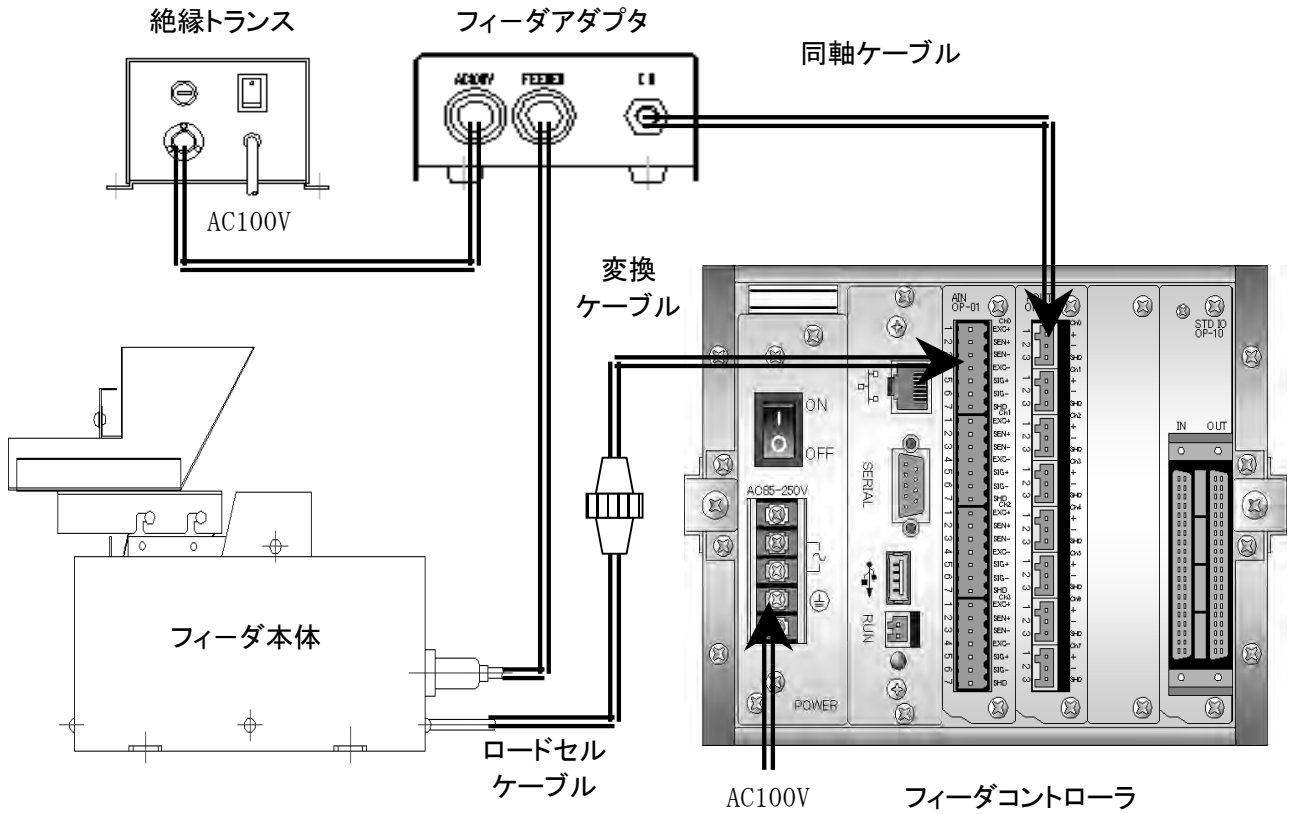
### <ホッパーの組立>

ホッパーは分解して清掃できます。



### 3. ケーブルの接続

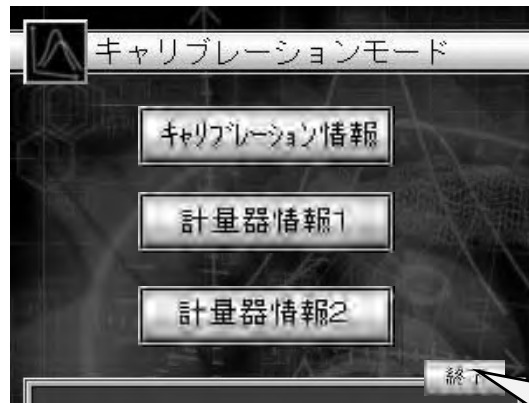
フィーダ本体、フィーダコントローラ、フィーダアダプタ、絶縁トランスおよびを同梱の変換ケーブル、同軸ケーブルを以下の様に接続します。



## 4. キャリブレーション

### 4.1. キャリブレーションメニュー画面

同梱のデータシートを参照し、計量器情報1およびキャリブレーション情報を設定します。  
『計量器情報1』および『キャリブレーション情報』ボタンをタッチすることで各設定画面に移行します。  
設定は計量器情報1を先に行ってください。

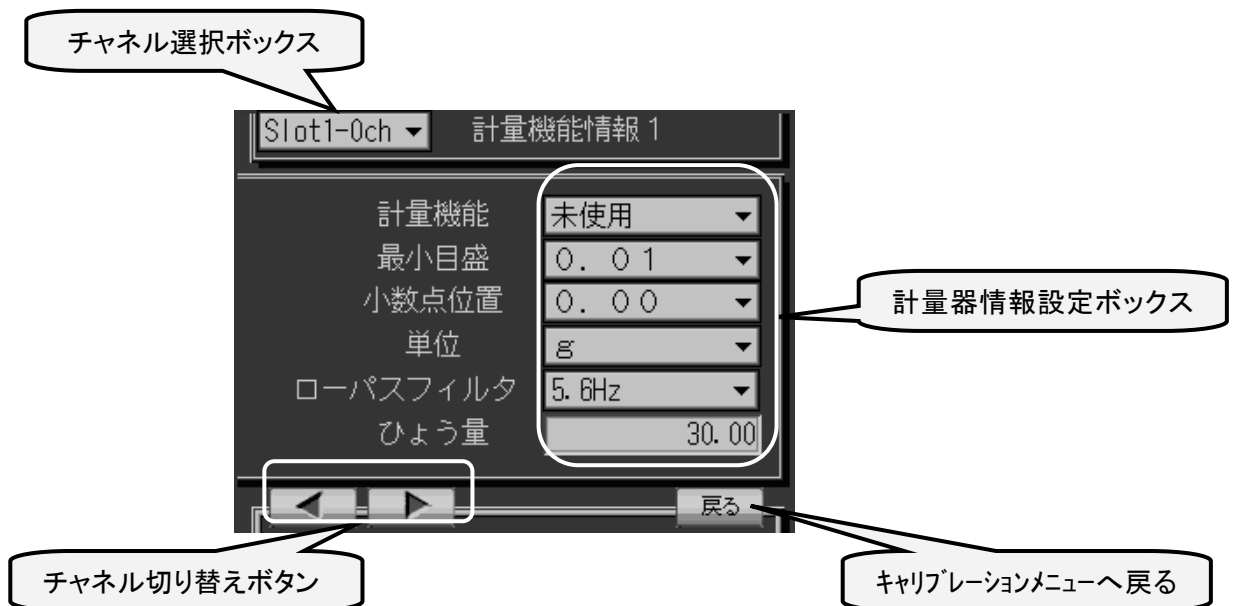


キャリブレーションモードを終了し、プロジェクト選択画面へ移行します。

- キャリブレーション情報  
計量器毎にロードセルの出力電圧と重量値を関係付ける操作・調整をおこないます。
- 計量器情報1、計量器情報2  
計量器毎に計量器の基本的な定数の選択および設定をおこないます。

### 4.2. 計量器情報1

計量器の基本的な定数を計量器毎に設定します。



- チャンネル選択ボックス  
ボックスをタッチし、メニューの中のから設定を行うチャンネルを選択します。
- 計量情報設定ボックス
  - 計量機能**  
通常は使用しませんので、「未使用」に設定してください。
  - 最小目盛**  
重量値の最小目盛(飛び数)を選択し、設定します。  
選択項目: 1/2/5/10/20/50/100  
ただし、選択項目表示は、小数点を加味した表示となります。
  - 小数点位置**  
重量値の小数点位置を選択し、設定します。  
選択項目: 0/0.0/0.00/0.000/0.0000
  - 単位**  
重量値の単位を選択し、設定します。  
選択項目: g/kg/t
  - ローパスフィルタ**  
この設定は通常は変更しません。(5.6Hz)  
選択項目: 11.0/8.0/5.6/4.0/2.8/2.0/1.4/1.0/0.7 Hz
  - ひょう量**  
計量器のひょう量を設定します。
- 計量器切り替えボタン  
設定をおこなう計量器を切り替えることができます。『<』ボタンで減少し、『>』ボタンで計量器 No.が増加します。
- キャリブレーションメニュー切り替えボタン  
『戻る』ボタンをタッチすることにより、キャリブレーションメニューに戻ることができます。

	AD4826-30G	AD4826-200G	AD4826-500G
計量機能	未使用		
最小目盛	0.01	0.1	
小数点位置	0.00	0.0	
単位	g		
ローパスフィルタ	5.6		
ひょう量	30.00	200.0	500.0

### 4.3. デジタルスパン校正

以下にデジタルスパン校正の手順の例を示します。

① 調整計量器の選択

調整計量器選択ボックス『Slot1-0ch』 または調整計量器切り替えボタン『<』・『>』により、調整をおこなう計量器を指定します。

② ゼロ点調整

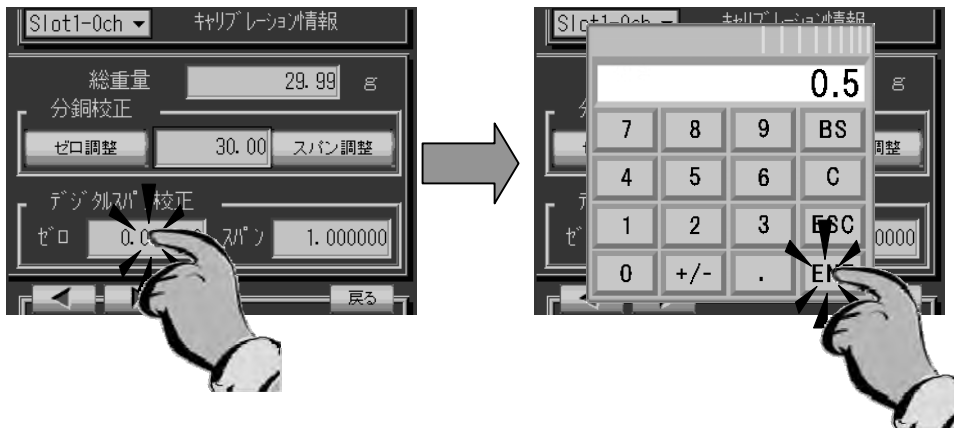
ゼロ点調整は 2 通りの方法があります。ゼロ点の入力電圧がわからない場合は a.の方法で調整を行ってください。

a. ゼロ調整ボタンで行う方法

分銅を載せない状態で『ゼロ調整』ボタンをタッチします。

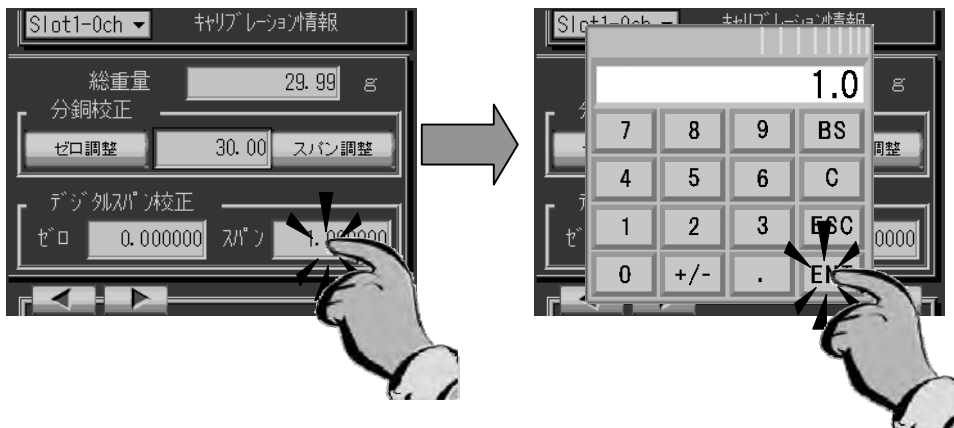
b. ゼロ点入力電圧値をキー入力する方法

ゼロ点入力電圧値設定ボックスをタッチし、ゼロ点におけるロードセル出力 (mV/V) をキー入力により設定します。(データシート参照)



③ スパン調整

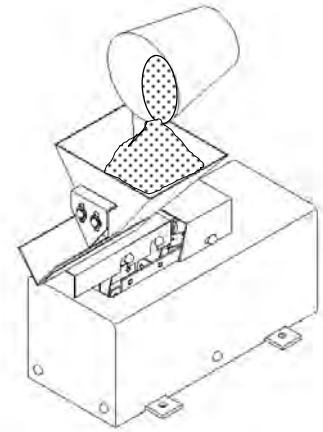
スパン入力電圧値設定ボックスをタッチし、ひょう量荷重におけるロードセル出力 (mV/V) をキー入力により設定します。(データシート参照)



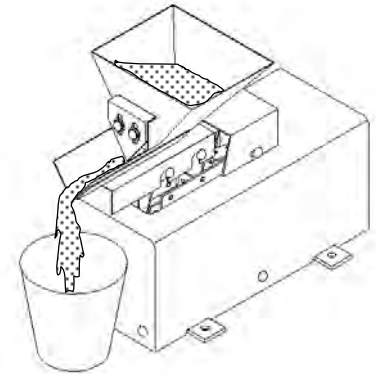
	AD4826-30G	AD4826-200G	AD4826-500G
分銅校正	30.00	200.0	500.0
ゼロ	『ゼロ調整』ボタン又はデータシートの値を入力		
スパン	データシートの値を入力		

## 5. フィーダの調整

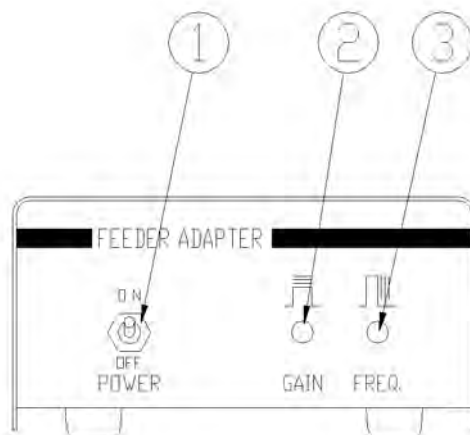
- (1) ホッパーのスリットを全開(一番上)にします。
- (2) ホッパーに粉体を入れます。
- (3) フィーダアダプタのゲインボリュームを右回転でカチッ、カチッと音がするまで右いっぱい回しておきます。(18回転が最高)
- (4) フィーダコントローラよりアナログ出力を4V固定で出力します。



- (5) フィーダアダプタの電源をONにします。  
フィーダが振動し、ホッパーより粉体が吐き出され始めます。
- (6) フィーダアダプタの周波数ボリュームを回し、共振点を合わせます。  
粉体がホッパーの後部より押し出る状態で一番強い振動に合わせます。  
粉体がホッパー後部に残ったり、バックしない様にします。



- (7) 振動の強さをゲインボリュームで調整します。  
流速が大きいとき、ゲインボリュームを左にもどし、調整します。
- (8) 流量をホッパーのスリットで調整します。



フィーダアダプタ

- ① 電源スイッチ
- ② ゲインボリューム
- ③ 周波数ボリューム